

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	27	学校名	大垣工業高等学校（全日制）
------	----	-----	---------------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域の産業を支える西濃地域の工業高校として 社会の変化や地域のニーズに応えるものづくり教育を通して 将来の地域産業界を担う専門的職業人の育成を目指す学校
------------------------	--

学校教育目標 (教育方針)	誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と確かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。
------------------	--

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとを愛し、人権を尊重協調の精神をもち、グローバルで持続可能な視点を有し、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身につけた生徒 将来のスペシャリストをめざして、絶えず新たな知識や技術を習得する創造性豊かな生徒 心身ともに健康で高い志をもち、社会から信頼され、チャレンジ精神をもった生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業・実習等では、課題解決へ向けて「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 学ぶことや働くことの意義、目的をしっかりと考え、コミュニケーション力の向上を図り、ものづくりに関する知識、技能だけでなく、技術の変化に対応できる力の育成 生徒一人ひとりの個性や長所が伸長でき、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細やかな指導の実施
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 工業の分野に興味をもち、主体的、継続的な学びの姿勢で、未知の領域に挑戦しようとする意欲と熱意をもっている生徒 幅広い教養と高い専門性を得るため、自ら積極的に学び、考え答えを導きだそうとする行動力をもっている生徒 部活動、生徒会活動、地域活動に積極的に参加し、よい良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒

学校の抱える課題	絶え間ない進歩により目まぐるしく変化を続ける社会において、よりよい未来の実現に向かうことができる確かな学力の育成、及び地域のものづくり人材の育成を担う工業高校としての魅力づくり 多様な生徒が学ぶ本校において、自分のよさや可能性に気付くとともに、互いの存在を認め支え合いながら、キャリア設計や自己実現に向かうことができる能力の育成、及び本校の特徴を踏まえた個に応じた指導・支援体制づくり
----------	---

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	生徒の学習意欲を高め、確かな学力を身に付けさせる教育の推進	
	進路指導	一人ひとりが帰属意識をもち、生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進	
	生徒指導	生徒に軸足を置いた、豊かな人間性を育てる教育の推進	
	その他	工業高校としての魅力があふれ、地域に開かれた信頼される学校づくり	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果○と課題▲	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	教員研修のさらなる充実などにより、生徒の能力を伸長できる知識と技能をすべての教職員が獲得することを通じて、工業高校としての魅力づくりを推進	施策Ⅱ-8 施策Ⅱ-14	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保護者アンケート 授業評価アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開週間に伴う研究授業・授業研究会、生徒による授業評価を実施した。 保護者が参観できる授業公開日を2日間設定し、実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業展開を行うことで、多様な学力層の生徒に対応できる時間が増え、生徒の授業に対する前向きな姿勢が増した。 保護者向け授業公開のPRを早めに行ったことで、昨年度より参加者が増えた。 ▲気象警報による臨時休校時のICT活用学習支援が実施できていない。 ▲生徒が授業で感じている良い変化が、保護者に伝わっていない。 	B
	不断の授業改善によるわかる授業、生徒個々に応じた個別最適な学びを通じて、社会で活躍する確かな学力を育成	施策Ⅱ-8					
	主体的・対話的で深い学びを通じて、失敗を恐れず探究的に学び続ける姿勢を育成し、その成果を地域に発信	施策Ⅰ-4					
進路指導	進路情報の提供や面接相談等による個に応じた進路指導を通じて、キャリア設計や自己表現に関する能力を育成	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保護者アンケート 進路決定状況 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者に本校の求人状況をリアルタイムで発信し、校外でもスマホ等利用して閲覧を可能にした。 工業各学科との連携によるインターンシップや現場、企業見学及び各学年に応じたキャリアガイダンスを実施した。 2、3年生の進学希望者にガイダンスや補習、模試を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路状況の割合が就職7割、進学3割で一部を除き決定できた。 進学ガイダンスや総合型選抜、学校推薦型選抜入試の対策として書類や面接指導を実施できた。 ▲売り手市場による勤労観や職業観意識の薄れで、育成の難しさと様々なケースの個別指導が増加している。 ▲進学希望者も含め全体的に基礎学力向上、内定合格後も学ぶ姿勢の継続を図る。 	B
	インターンシップなど就業に関する体験的な学習の充実を通じて、望ましい勤労観や職業観を育成	施策Ⅱ-13 施策Ⅱ-14					
	進学希望者に対する進路指導体制の充実を通じて、基礎学力や学習意欲の向上を図り、進学希望者の進路実現をサポート	施策Ⅱ-8					
生徒指導	望ましい人間関係のもと、是々非々を明確にした指導を通じて、自己指導能力を育成	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保護者アンケート 各種アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全講話、自転車講習会、生徒会・育友会と連携した交通安全指導を実施した。 いじめ等の未然防止のために各種調査を実施するとともに、HR担任・学科と連携し細やかな情報共有を行った。 個別の支援が必要な生徒に対する指導について、外部機関との連携と教員間の共通理解を促進した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめが疑われる事案に対して、速やかに情報共有し、早期に組織で対応できた。 問題行動や不登校等に対して、ケース会議の開催、SCの活用、外部の専門機関との連携ができた。 ▲授業やその他のすべての教育活動を通じて、いじめや問題行動が起きにくい学校風土づくりが必要である。 ▲交通マナー向上のため、自他の生命への意識向上や実践力の育成が必要である。 	B
	普段の授業やいじめ未然防止など各種啓発活動の充実を通じて、自他の生命を尊重し、他者と関わる力を育成	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-3					
	生徒の実態や学校の特徴把握を通じて、組織的な生徒指導による個に応じた支援を充実させるとともに、支援が必要な生徒に対して、外部人材等と連携した支援を充実	施策Ⅳ-21 施策Ⅳ-23					
その他	県指定事業や地元企業との連携協定に基づく地域資源を活用した実践的・体験的な学びを通じて、DXなど社会の変化に柔軟に対応でき、地域産業界を担う専門的職業人を育成	施策Ⅱ-10 施策Ⅱ-13 施策Ⅱ-14	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保護者アンケート 資格取得状況、コンテスト結果等 地域担い手育成協議会における助言(県指定事業) 	<ul style="list-style-type: none"> 県指定事業の活用により、地元企業との連携が活発になった。教育課程連携企業は今年度新たに2社が加わり、12社まで増加した。 今年度も課題研究を中心にSDGsに関する取組が継続された。 5S委員会では全工業科教員が外部有識者による安全講習を受講し、学習したリスクアセスメント手法を活用し、安全な教育環境を目指した5S活動を実践した。 本校の魅力発信と地元商業施設での創立100周年記念イベントを関連付け、情報発信に注力した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な取組が新聞などで複数回広報され、本校の取組が地元地域に周知された。 学習により工業科教員全員がリスクアセスメントの手法を身に付け、具体的な活動が、安全な学習環境の構築に向けた5S活動へと発展した。 地元企業との連携活動は年々活発化しており、地域イベントの運営回数増加や本校での意欲的な取り組みは、開かれた学校づくりがなされ、本校の魅力発信にもつながった。 ▲本校に対する保護者のイメージアップ策があると良い。 ▲工業高校の特徴を生かし、魅力的なDXが創出されると良い。 	A
	工業高校の学びを活かした社会貢献活動の推進を通じて、SDGsを理解し、グローバルな視点でよりよい地域社会の実現に挑み続ける姿勢を育成	施策Ⅱ-12					
	5S活動の推進による安心・安全な環境整備に加え、資格取得の積極的な推進、課題研究等の取組を通じて、これからの時代を見据えた、ものづくりに関する高度な専門性を育成	施策Ⅱ-10 施策Ⅱ-14 施策Ⅲ-19					
	保護者や地域住民への授業等の公開、学校運営協議会、新校舎建築に関する議論等を通じて、家庭や地域と連携し、これからの時代を見据えた、工業高校としての魅力あふれる学校づくりと情報発信を推進	施策Ⅰ-7 施策Ⅳ-20					

<p>来年度に向けての改善方策等</p> <p>●学校での学びの様子を、保護者がより理解できるよう、「すぐる」等による情報発信を積極的に行う。</p> <p>●進路指導</p> <p>●工業科と連携して1年生から勤労観、職業観の育成指導と外部講師も活用して、学び続ける力と問題解決能力について考え、取り組ませる。</p> <p>●生徒指導</p> <p>●個に応じた学校体制の継続と、いじめや問題行動の未然防止と交通安全意識の向上のために各種啓発活動や是非を明確にした指導のさらなる実践を行う。</p> <p>●その他(工業教育)</p> <p>●工業教育においては、SDGsに関する取組の充実とともに、未来を担うDX人材を育成するため、実践的なデジタル技術の活用と課題解決型学習を組み合わせた研究実践を推進する。</p>	<p>実施日：令和8年2月3日</p> <p>学校関係者評価</p> <p>●学ぶ機会があっても、他人事として聞いては身にならない。自分事として捉えられるような工夫をするとう効果が上がると思う。</p> <p>●企業としては欠席日数が多い生徒が増えてきていることが気になる。学校に居場所が増えつながることで欠席は減るのではないかと。今までとは異なるコミュニケーションの機会をつくってみてはどうか。</p> <p>●出前授業など小中学生に工業高校の学びを知ってもらえる機会が増えてほしいと思う。</p> <p>●言いたいことが言えない子どもたちが増えていっているように感じる。希望が持てる社会をつくるためにも言い合える関係づくりが大切だと思う。</p> <p>●生徒指導においては、小中高いづれも同じ課題がある。子どもたちが適切なコミュニケーションをとれるようになることよい。ソーシャルスキルトレーニングなどの必要性を感じる。</p> <p>●キャリア教育に関しては、大学などの学歴よりもやりたいことをやっていることが重要だと思う。</p> <p>●普通科志向が強いため、工業高校の魅力発信はなるべく早い段階(中学1・2年生)を対象に始めるとよい。</p>	<p>実施日：令和8年2月13日</p>
---	---	----------------------